

自閉傾向が高い妊婦における産後うつおよび極早期の育児過誤のリスク

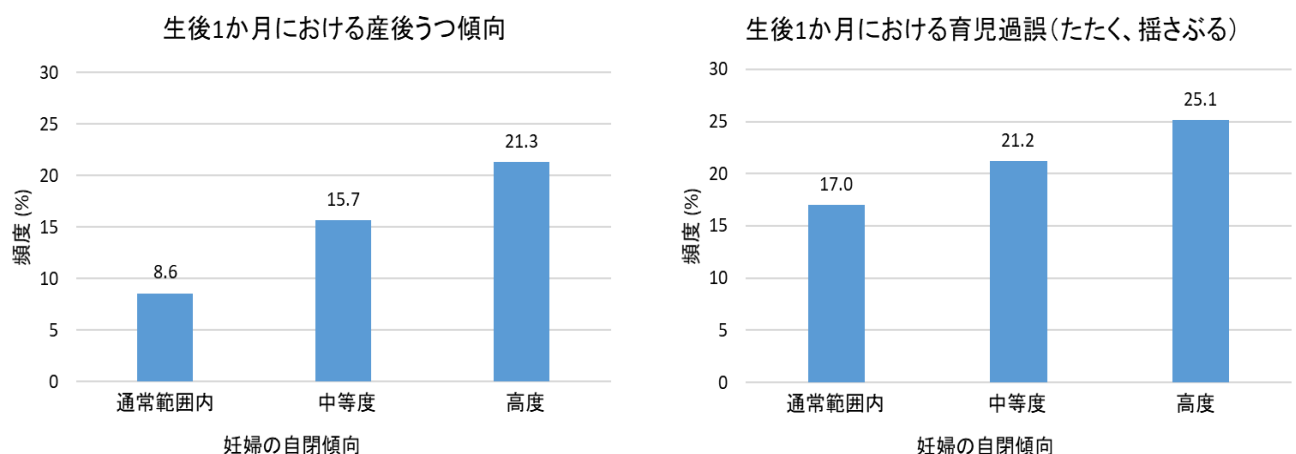
－子どもの健康と環境に関する全国調査－

細澤麻里子

周産期における産後うつや育児過誤を予防する上で、妊婦の社会的なつながり（ソーシャルサポート）が重要であることが知られています。一方で、社会的なつながりを築くことが不得意な妊婦、例えば、自閉傾向が高い妊婦は、産後うつや育児過誤のハイリスク群である可能性があります。この関連は大規模コホートでは明らかにされていません。さらにこの関連において、ソーシャルサポートがどんな役割を果たすのかについては検討がまだ行われていません。

本研究では、エコチル調査で得られたデータから 73,532 人の妊婦を対象に、妊娠中の自閉傾向と産後 1 か月時点での産後うつ傾向および育児過誤との関連を検討し、さらに、この関連が妊娠中の主観的ソーシャルサポートによってどの程度媒介されるかを検討し、専門誌（Journal of Affective Disorders.2021;280;11-16）で報告しました。

妊婦の自閉傾向は、妊娠中後期質問票に含まれる日本語版 Autism Quotient 短縮版（AQ-J-10）を用いた自己評価により、通常範囲内群（0－4 点）、中等度群（5－6 点）、高度群（7 点以上）に分類しました。産後うつ傾向は、産後 1 か月時点でエジンバラ産後うつ病自己評価票を用いて評価し、9 点以上を産後うつ傾向ありとしました。育児過誤（新生児をたたく、揺さぶる）、妊娠中の主観的ソーシャルサポートの程度は、それぞれ妊娠中後期、産後 1 か月時の自記式質問票で評価しました。



本研究では、産後 1 か月時点において 7,147 人(9.7%) が産後うつ傾向を、12,994 人(17.7%) が育児過誤の既往がみられました。また、自閉傾向が高いほど、産後うつ傾向および育児過誤のリスクが高くなりました(産後うつ傾向の調整後相対リスク: 中等度群 aRR =1.74, 95%信頼区間(CI)=1.64-1.84; 高度群 aRR=2.33, 2.13-2.55、育児過誤: 中等度群

aRR=1.19, 1.13-1.24; 高度群 aRR=1.39, 1.28-1.50)。妊娠中のソーシャルサポートは、自閉傾向と産後うつ傾向および育児過誤との関連の約 3 割の部分を説明(媒介)することがわかりました。

今回の結果から、自覚的な自閉傾向が高い妊婦は、通常範囲内の妊婦と比べて生後 1 か月時点で産後うつ傾向および育児過誤のリスクがそれぞれ約 2.3 倍と 1.4 倍高いことがわかりました。また、この関連は、妊娠中のソーシャルサポートによって部分的に説明されました。

以上の結果から、自覚的な自閉傾向が高い妊婦に対しては、妊娠中から産後うつ傾向や育児過誤の予防を目的とした支援を提供していくことが重要です。また、妊娠中からソーシャルサポートを提供することが、その支援策の一つになると考えられます。